死刑囚となった神

パウロのクリスマス①
2014·11·30

使徒パウロのクリスマス

- パウロは,使徒言行録に記録された説教や,彼の書簡の中で,一度もイエス・キリストの降誕について述べていない
  - イエス・キリストがいつどこでどのように生まれたのか聞いていたはずだが…(ルカは同行者だった)
  - 彼は自ら体験したことや,直接啓示を受けたこと以外は語らなかったのではないか
- では彼にとって神が人となられたという事実をどのようにとらえていたのか?
  - パウロが描くクリスマスとは

フィリピの信徒への手紙　2章1～11節

　そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

フィリピの信徒への手紙　2章1～11節

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

キリストは「神の身分」であった

- キリストは「神の身分」であった
  - 「身分」(モルフェー):かたち・姿・・form・nature,などと訳される
  - 概観のみならず,内容・実質をも意味する言葉
- ヨハネは「言」(ロゴス)と表現した
  - 「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。」<1:1～2>
- キリストは唯一絶対の神,創造主であられた
  - この世界を造り,支配しておられる神

しかし神であることに固執しなかった!

- 「神と等しい者であることに固執しようとは思わず」
  - 「神と等しい者」:「神の身分」の別の表現
- 「固執しようとは思わず」とあっさり書いてあるが…
  - 神であることにこだわらなかった
  - 人間には決して理解できない決断
- 私たちは身分や立場に固執してしまう
  - ふさわしく扱われたい。そうでないと腹を立てる!
- 人間はどうやったら神に近づけるか願っている
  - 少なくとも人間以下になろうとは思わない

さらに自分を「無」にした

- 「かえって自分を無にして」
  - 神であることに固執しなかっただけではなく
  - ∞(無限大)→100 ではなく ∞→0 になった
- 「人間と同じ者になられました」
  - 御自分が地の塵で造られた人間になられた
  - 創造主が被造物になられた＞人間が粘土細工になる
- 人間になっただけではなく「僕の身分」となった
  - 「神の身分」であったのに「僕(奴隷)の身分」になられた
    - “モルフェー セウー”→“モルフェー ドゥーリュー”
  - 私たちに仕えるために人となられた
  - せめて「王」であられるべきなのに!

死に至るまでへりくだった

- 「人間の姿で現れ」
  - 死ぬべき肉体を取られた
- 「へりくだって、死に至るまで」
  - へりくだるといっても,単なる謙遜や卑下ではない
- 死に至った(選んだ)
  - 人間の中にも死を見ずに天に上げられた人もいたのに
- 死に至ったのは私たちの罪の身代わりとなるため
  - 神(キリスト)自らが定められた,「命は命によって贖う」という掟を守るために

その上十字架で死なれた!

- 「十字架の死に至るまで従順でした」
  - 「従順」とは,誰かに従ったと言うことではなく,自分の意志を貫いた,強いてそうした,という意味
- 死刑囚になるまでへりくだった!
  - すべての人を救うために,最も卑しく罪深い身分となった
- 「十字架の死に至るまで」
  - 単なる「死」ではない。人類史上最も残酷な死に方を選ばれた
  - ∞ → 0 → −∞(マイナス∞)

死刑囚となった神
＜パウロのクリスマス＞

神 → 非神 → 人間 → 奴隷 → 死 → 十字架

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。